

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

「アフリカ諸語の情報構造と言語形式の類型論的研究」2013年度第3回（第9回）

研究会報告

時：2013年10月12日13：30－18：00

場所：A A研306

研究発表

1) Pius W. Akumbu

‘Babanki Verb Tone’

2) 阿部優子

「ベンデ語の焦点標示 ‘Focus markers of Bende’」

3) 高村美也子

「タンザニア・ボンディ社会におけるボンディ語の言語使用 ‘Use of the Bondei language at the Bondei society in Tanzania’」

報告

アフリカ人研究者を招へいして研究会を開催した。初めに、日本人研究者とアフリカ人研究者との研究協力の推進をはかることの大切さを確認した。また、共同研究課題・共同研究、本申請課題の成果として「アジア・アフリカの言語と言語学」2014年号に特集を組むことを決定した。特集のテーマは、「アフリカにおけることばの形式と意味」を予定する。2014年10月に ‘Information structure in Africa’のテーマで国際研究集会をフンボルト大学との共催で日本で開催することを決定した。

さて、Akumbu氏の研究発表は、Babanki語の動詞声調を超分節的理論で説明するものであった。声調素と声調単位を結ぶやり方として、普通、左から右へと結んでいく。ところが、Akumbu氏によると、一部、右から左へ結ぶやり方がBabanki語の動詞声調をよく説明する。これにたいしては、右から左へと結ぶやり方に原理的な説明が必要であるとの指摘があった。

阿部優子氏の研究発表は、ベンデ語の焦点標示を明らかにしようとするものである。焦点標示についての研究は、バントゥ諸語研究において近年さかんに行われるようになったことを指摘した。そこでは、従来アフリカで話される言

語研究では見逃されてきた音韻レベルでの焦点標示研究に着目している。音韻レベルでの焦点標示の研究は、これからアフリカの言語研究においては重要なものとなろう。

高村氏の研究発表は、ボンディ語が失われつつある中でボンディ社会における言語使用の社会言語学的調査の成果である。ボンディ社会がどのような社会であるかの調査がなぜボンディ語が失われようとしているか明らかにする鍵となろう。そのためには、従来のよくある社会言語学の調査票を用いての調査では限界があるとの指摘があった。

今回の研究会は、当該研究課題の最終年、最終の研究会であった。成果は、情報構造の研究がアフリカで話される言語の研究において重要なテーマであることが日本のアフリカ言語研究者のあいだで共通の認識として醸成することができたことである。来年度以降、各研究者が科研等の補助金を確保して情報構造の研究のための資料を収集することになる。

阿部氏と高村氏の研究発表に関しては、別紙要旨を参照のこと。

ベンデ語の焦点標示¹

阿部 優子（東京外国語大学 AA 研）

0. はじめに

バントゥ諸語研究では、焦点・話題にかかる情報構造の研究が盛んであるが、その成果をある程度踏まえ、ベンデ語における焦点標示の方法について整理・分析することが本発表の目的である。

本発表では、バントゥ諸語の焦点研究の蓄積を踏まえ、ベンデ語について 1. 語順、2. 分裂文、3. Verbal focus vs. Post-verbal focus、4. 取立て詞(辞)について例を提示した。とりわけ 4. の取立て辞、すなわち焦点標示のための小辞 (clitic, particle) の *gho*, *bho*, *mu*-の用法を詳細に見たい。

1. バントゥ諸語における焦点（先行研究）

- 広義の「焦点 (Focus)」の定義 (Green 2007: 37-40 (Kula 2012 より引用))

topic refers to presupposed information while focus refers to non-pre-supposed information that is not recoverable from the previous discourse. ← 焦点≡新情報

- バントゥ諸語における焦点 (Nurse 2006, Harjula 2004)

Strategy	典型的な要素	報告のある言語例
1. 語順 (word order/movement)	SVO でない語順	Matengo, Makhwa
2. 分裂文	<i>n(i)</i> , <i>n(a)</i>	Chagga, Kitharaka
3. Verbal vs. Post-verbal focus marking (Disjunct vs. Conjunct / Disjoint vs. Conjoint)	<i>raa</i> (for verbal) tone/prosody	Ha, Nyarwanda Bemba, Makhwa, Chewa, Herero, Haya
4. 取立て詞／辞／tone／prosody	Focal markers (participials/particles)	

¹ 本文中、ベンデ語はイタリック体で示し、次のように転写する。母音 *a* [a] *e* [e] *i* [i] *o* [ɔ] *u* [u]、子音 *p* [p] *b* [b] *t* [t] *d* [d] *ch* [c] *j* [j] *k* [k] *g* [g] *bh* [β] *f* [f] *s* [s] *z* [z] *gh* [ɣ] *h* [h] *m* [m] *n* [n] *ny* [ɲ] *ng'* [ŋ] *w* [w] *y* [j]。声調は基本的に *á* (High), *a* (Low), *ǎ* (Rising), *â* (Falling) で示すが、記述が未整理のため、すべてのベンデ語原文に標示しているわけではない。鼻音化 *ã*、形態素境界 -、クリティック境界 = で示す。グロスは () の短縮形 ANT(anterior), APP(applicative), ASS(associative), CONS(consecutive), COP(copula), DIS(distal), dis.DEM(distal demonstrative), FOC(focus), GER(gerund), HAB(habitual), IMP(imperative), ITR(iterative), ITT(intensive), n.DEM(near demonstrative), NEG(negative), PAS(passive), PL(plural), PRS(present), PST(past), ref.DEM(referential demonstrative), REL(relative), SG(singular), SUBJ(subjunctive), TAG(tag), TOP(topic)。数字は人称ないし名詞クラス番号。

2. ベンデ語の焦点標示方法

2.1. 語順

バントゥ諸語の基本語順は SVO であるが、それが崩れる場合は、焦点化要素(新情報)がより右方(後方)になるのが典型的である(Bearth 2003:128-130)。ベンデ語においても、VS にして S を焦点化したり、OV にして動詞を焦点化する。

- (1) 基本語順 SVO:「あなたは誰を殺したの?」に対する答え(O には焦点あり／なし)

úune na-a-mw-íhaghá Yasíni

I 1SG-PST-3SG-kill Yasini

“I killed Yasini.” (私はヤシニを殺した) ←平叙文／ヤシニ

- (2) OV(pass) by S:「誰がヤシニを殺したの?」(動詞の受動化により S を焦点化)

Yasíni na-a-jíhagh-wá noone

Yasini 3SG-PST-kill-PAS by me

「ヤシニは私に殺された」

- (3) OVS:「誰がヤシニを殺したの?」(S を焦点化)

Yasíni na-a-mw-íhaghá úune

Yasini 1SG-PST- 3SG-kill I

「ヤシニは私が殺した」←ただし(2)の方が好まれる

- (4) SOV:「あなたはヤシニをどうしたの?」に対する答え(V を焦点化)

úune Yasíni na-a-mw-íhaghá

I Yasini 1SG-PST-3SG-kill

「私はヤシニを殺した」

- (5) OVC:「タバコはどうして作っているの?」に対する答え(C を焦点化)

jeeji n-sunko je-ene n-koo-lima kobhe i-zao lya bhyasala

9n.DEM 9-tabacco 9-itself 1SG-HAB-cultivate as 5-product 5ASS trade

「タバコ自体は、商品作物として作っているんだ」

(6) 対比{SVO, SOV}(SOV の V を焦点化)

u-nyene *gha-a-ka-sumpukisy-anga* *mw-ana-ane,*
TOP-she **3SG-PST-sink-ITT** **1-child-my**
no-one *mw-ana-aje* *n-am-put-aghula* *n-an-teeka*
and(FOC)-I **1-child-her** **1SG-PST-cut-ITR** **1SG-PST-cook**

「彼女が私の子を沈めたものだから、私は彼女の子を切り刻んで煮ちゃった」

2.2. 分裂文

本来、文末近くにあるはずの焦点を、分裂させて前に持ってきているもの。ベンデ語では取立て辞 *gho*=による OV の例が見つかった。

(7) {*gho*=名詞}によるもの

gho=my-enda *ja-abho bha-a-hwa* *ku-pata*
FOC=4-cloth **4-their** **3PL-PST-finish** **GER-get**

「彼らが手に入れたのは、彼らの服だった」

2.3. Verbal vs. Post-verbal focus marking (Disjunct vs. Conjunct / Disjoint vs. Conjoint)

いくつかのバントゥ諸語について、動詞が焦点化されるものと、動詞の後ろが焦点化されるものの対立が報告されている。その対立のストラテジーは 2 種類(動詞屈折によるもの、トーンなどによるもの)ある。Ha 語では、その両方を組み合わせられる(Harjula 2004, Nurse 2006, Kula 2012)。

(8) 動詞接辞による対立(Ha 語; Harjula 2004: 100, 167)

a) Verbal focus	b) Post-verbal focus
<u><i>ba-Ø-ra-rima</i></u>	<i>ba-Ø-rima</i> <u><i>ibiharaqi</i></u>
they-Ø-FOC-cultivate	they-Ø-cultivate beans
「彼らは <u>作っている</u> 」	「彼らは <u>マメ</u> を作っている」

(9) 動詞接辞およびトーンによる対立(Ha 語; Harjula 2004: 100)

	Post-verbal focus (conj.)		Verbal focus (disj.)	
	segmental marking	lexical accent	segmental marking	lexical accent
Present	Ø	deleted	-ra-	preserved
Recent Past	-a-	deleted	-a-a-	preserved
Remote Past	-a-	deleted, tense accent	-a-ra-	deleted, two tense accent
Consecutive	-ka-	deleted	-ka-	preserved
Potential	-oo-	deleted	-oo-	preserved

raa-などの時制辞の有る無しで、動詞焦点／動詞後焦点の対立をさせる言語は D60, M40 (M50), M60, P20-30, K21, S40-50 と比較的広い範囲の言語で報告されている(Nurse 2006: 193)。ベンデ語では, verbal vs. Post-verbal focus の対立が標示されるのか否か?

- Ha 語の *raa*-にあたる時制辞 *la*- (眼前の未来)あり。しかし目的語をとる(?)。
- 動詞固有のアクセントの deleted/preserved の対立の可能性はある。

2.4. 取立て詞／小辞／接辞

以下の小辞・接辞は、基本的に取立てる語の前について、後続の名詞や動詞を焦点化する。

bho= 動詞 <*bhoóbho* (ref.DEM, 14CL)

gho= 名詞(類、句) <*ghoógho* (ref.DEM, 1/3CL)

ti= 名詞／動詞句 <動詞 **ti*「言う」 (“*Eti!* / *Ati!*” Swahili)

tu= 名詞／動詞句 「ただ〜だけ」< (“*tu*” Swahili)

n(a)= 名詞／動詞句 <*na* (conj. “and”)

mu- 動名詞

取立てる語の後について焦点化するものもある。

名詞(類、句) =*inu* 「今、ちょうど」

名詞 =*e*

2.4.1. *gho*=, *bho*=

- 語源

14 クラスの指示詞の Referential form “*bhoobho*” 「その(モノ、様)」

1/3 クラスの指示詞の Referential form “*ghoogho*” 「その(人／モノ)」

(10) *na-a=ghó* < *na ghoógho* 「そして彼(それ)は」

ベンデ語の *gho*, *bho* は(指示詞にその起源があると推測されるが)クラス的一致はない。クリティック化(文法化)が進んでいる。

(11) クラス一致を起こさない(文法化が進んでいる)

a) *gho=my-enda ja-abho bha-a-hwa ku-pata*

~~FOC=4-cloth~~ 4-their 2PL-PST-finish GER-get

「彼らが手に入れたのは、彼らの服だった」(7)再掲

b) *ma-ghambo* *ghaa* *si-fumo* *sya* *bhuti=inu* *mw-ana-abho.*
 6-affir 6ASS 7-trad.med 7ASS how=FOC 1-child-your

「呪医術のことって、一体何のことだ、お前さん？」

c) *gho=bhu-fumo* *ni* *u-li* *na-abho* *ughwe,*
 FOC=14-trad.med COP 2SG-be and-your you
te=gho=mu-fumo *ni* *mw-ana-abho.*
 NEG=FOC=1-witch.doctor COP 1-child-your

「呪医術って、あなたがやっていることですよ。呪医はお前さんじゃないのかい」

d) *jeeji* *n-sunko* *na=gho=e* *u-koo-lima*
 9n.DEM 9-tabacco and(FOC?)=FOC=FOC 2SG-HAB-cultivate

「これらタバコもまた、あなたは植えるのですね」(*nsunko* を焦点化しているが^{*}*naa=jo*)

● *bho* の用法

(12) 基本的に動詞句に前接して、動詞(句)を焦点化

a) *kú-mwésé* *bho=kw-a-ka-bhilá*
 17-Mwese FOC=17-PST-DIS-boil

「ムウェセ村で、まさに夜が明けた」

b) *mw-áná* *Málúlanga* *bhw-a-ká-fw-ilé* *lwa* *kú-sóm-ághúl-wa*
 1-child Malulanga FOC=3SG-DIS-die-ANT 11ASS GER-spear-ITR-PAS

「マルランガの子は刺されまくって死んだ」

(13) 接続詞として用いられることも(焦点マーカーから接続詞へ文法化が進んでいる?)

bho=gha-a-swana *ne=ebha,* *mu-kasi* *ii-siimi*
 FOC=3SG-PST-be.vamped FOC=her.husband 1-his.wife 5-pregnancy
no *ghoogho* *mu-sya*
 and 1ref.DEM 1-slave

「女は(ひとの)夫に誘惑されたので[理由]、男の妻は奴隷女と時を同じくして身籠った」

(14) 様態関係節をつくる *bho=* (文法化?)

mú-ntú *bhw=á-koo-n-fúnánílá*
 1-person REL=3SG-HAB-1SG-help

「私をいつも助けてくれるような人」

● *gho* の用法

基本的に名詞類(形容詞を含む)、名詞句につく。*gho=moja kwa moja* など一語に認識される句も OK。分裂文も作る(2.2.参照)。

(15) ホストが名詞

gho=kasaaghula ghwa ma-ghambo gh-onse gha-koo-hita ku-bhw-eleelo.

FOC=1a-world 6ASS 6-affairs 6-all 3SG-HAB-pass 17-14-world

「まさにすべてを采配するもの(神)が、世の中にやってきたのだ」(分裂文)

(16) ホストが動詞

(fintu) fefyo gh=fi-koo-bha fyo-n-koo-lima

(things) 8ref.DEM FOC=8-HAB-be 8REL-1SG-HAB-cultivate

「それらは、私がいつも植えているものです」(REL と似た働き?)

(17) ホストが形容詞

a) maana, ma-hela gh=ma-kulu ku-bhw-eleelo.

that is, 6-money FOC=6-big 17-14-world

「つまり、この世の中、お金がまさにいっぱいってことだ」

b) tu-bhal-e mu-punga ghw-ane gh=mu-kaka

1PL-say-SUBJ 3-rice 3-my FOC=3-difficult

「つまり、うちじゃコメは難しいってこと」

(18) ホストが句

a) (fintu) gh=fya kwanza...

「まず最初に…」

b) gh=moja kwa moja...

「まっすぐに…」

2.4.2. *ti*= 名詞／動詞句 <動詞 **ti*「言う」 (“*Eti!* / *Ati!*” Swahili)

(19) *tw-a-ka-fel-elo mu-ma-kololo, ku-si-swahili bha-a-bhala ti=mu-mabonde*

1PL-CONS-12-send-APP 18-6-valley 17-7-Swahili 2PL-CONS-say FOC=18-mabonde

「…そしてそれ(12.マメ)を谷に運ぶんだ。スワヒリ語ではほら「mabonde(谷)」って言うだろ」

2.4.3. *tu*= 名詞／動詞句 「ただ〜だけ」 (“*tu*” Swahili)

(20) *tu=hembele-e bhe-ena-ane*

FOC=wait-2PL.IMP 2-child-my

「ちょっと(ただただ)待っておくれよ、友よ」

2.4.4. *n(a)*= 名詞／動詞句 <*na* (conj. “and”)

mu-ku-tenda-tenda *gha-a-tenda* *ne=swala* *lya* *bhu-ghanga*
 2PL-PRS-say-say 3SG-CONS-say and(FOC)=5question 5ASS 14-trad.med.
 「みんなが言ってた、誰か言ってたよ、ほら伝統医療の話さ」

2.4.5. 複合動詞を作る際、後続動詞につく *mu-*

(21) *mu-* : 18 クラス名詞接頭辞「～の中」が「焦点」を標示する？

a) *mu-n-tumba* b) *n-tumba*
 18-9/10-hole 9-hole
 「穴の中（で、に、へ、から）」 「穴」

移動動詞に後続する動詞に *mu-* が多いのは、移動動詞は具体的な意味が薄れ(文法化しつつある?)、動詞の意味内容は後続動詞が担うから? (the commonest form of progressive; “be+locative+infinitive”, progressive<verb focus: Nurse 2006: 197)

(22) 移動動詞-*ji-*

a) *u-ji-ilé* *heé?* b) *n-ji-ilé* *mú-ké-éhághá* *Nyansála*
 2SG-go-ANT where 1SG-go-ANT 18(FOC)-CONS-kill Nyansala
 「あなた、何処へ行くの？」 「私はニャンサラを殺しに行く」

c) *ka-j-eng-e* *tu=mu-ka-put-e* *silya* *si-ti*
 CONS-go-ITT-2PL.IMP FOC=FOC-CONS-cut-SUBJ 7dis.DEM 7-tree
 「(あなたたち) 行って、あの木を切ってください」

d) *n-ji-ilé* *mú-ku-nyaágha* e) *n-ji-ilé* *mu-ká-nyaágha*
 1SG-go-ANT 18(FOC)-GER-bath 1SG-go-ANT 18(FOC)-CONS-bath
 ‘I go to take a bath.’ ‘I go, and then take a bath.’

f) *n-ji-ilé* *ká-nyaágha* g)* *n-ji-ilé* *ku-nyaágha*
 1SG-go-ANT CONS-bath 1SG-go-ANT GER-bath
 ‘I go, and then take a bath.’

h) *n-an-já* *ku-nyaágha*
 1SG-PST-go GER-bath
 ‘I started to take a bath.’ <-auxiliarized -*ji-*

(23) 状態動詞-*ghón-*

a) <i>bha-a-ghóná</i> <u><i>mú-ku-halâmúka</i></u>	b) * <i>bha-a-ghóná</i>	<i>mu-ká-halâmúka</i>
3PL-PST-fall.asleep 18(FOC)-GER-awake	3PL-PST-fall.asleep	18-CONS-awake

‘They got asleep, and then got awake.’

c) * <i>bha-a-ghóná</i>	<i>kú-halâmúka</i>	d) * <i>bha-a-ghóná</i>	<i>ká-halâmúka</i>
3PL-PST-fall.asleep	GER-awake	3PL-PST-fall.asleep	CONS-awake

3. まとめと課題

- 語順: 焦点は右方(後方)へ(SVQ, SOV, OVS)。
- 分裂文: *gho=*をつけて焦点語を前に取り出す。
- 取立て詞・辞: *bho=*, *gho=*を多用。複合動詞の焦点標示としての *mu-* (18CL)?

今後の課題:

- 声調・アクセント・プロソディーによる焦点化
- *Conjunct/Disjunct* の区別があるのか、ないのか? それを引き起こすのはどのような要素か?
特に動詞固有のアクセントの *deleted/preserved* の対立があるか否か。
- *QUIS*(Questionnaire on Information Structure): *Reference Manual* の活用
(<http://web.uni-frankfurt.de/fb10/fery/publications/QUIS.pdf>)

参考文献

- 米田信子(2008)「マテンゴ語の情報構造と語順」『言語研究 133』pp.107-132
- Bearth, Thomas (2003) Syntax. In: Derek Nurse and Gérard Philippson (eds) *The Bantu Languages*, 121-142. London: Routledge.
- Harjula, Lotta (2004) *The Ha Language of Tanzania, Grammar, Texts and Voabulary*. Rüdiger Köppe Verlag.
- Kula, Nancy C. (2012) “Focus anticipation in focus and question prosody in Bemba and its implications for the Bantu conjoint-disjoint distinction.” A handout for International Workshop on Bantu Languages at Osaka University. 10 Nov. 2012.
- Nurse, Derek (2006) “Focus in Bantu: verbal morphology and function” *ZAS Papers in Linguistics* 43. pp.189-207.

発表者：高村美也子

タイトル：タンザニア・ボンデイ社会におけるボンデイ語の言語使用

Use of the Bondei language at the Bondei Society in Tanzania

要旨

インド洋の面するタンザニア北東部タンガ州で使用されているボンデイ語に焦点を当て、言語の使用状況について考察する。ボンデイ語が使用されている地域の近隣の言語には、サンバー語、ジグア語、ディゴ語などがある。これらの言語は現在も日常的に使用されていると言われているが、ボンデイ語の使用は減少している。本発表では、ディゴ語、サンバー語、ジグア語にも着目しつつ、なぜボンデイ語の使用が減少しているのかの検討を試みた。

ボンデイ語は、ベヌエ・コンゴ バンツ語群 バンツ語群 シャンバラ属の G24 に属す。サンバー語は、バンツ語群シャンバラ属の G23 に属し、ジグア語はバンツ語群ジグア・ザラモ属の G31 に属す。この 3 言語は、バンツ語群の G グループに入り、類似していると言われ、各言語の語彙は、約 80% 類似しているということが分かった。ディゴ語は、バンツ語群の E グループの E73 に属す。グループは異なるが、ディゴ語とボンデイ語の語彙は、約 60% 類似している。そして、ボンデイ語とスワヒリ語を比較してみると、語彙は約 40% が類似し、語順はほぼ同じである。それより、ボンデイ語の語彙と類似しているサンバー語とジグア語、ディゴ語のスワヒリ語との差異は、ボンデイ語とスワヒリ語の差異と似ていると考えられる。

ボンデイ語使用の状況は次の通りであった。家庭内では、50 歳以上の世代でボンデイ語を使用する人がいるが、それより若い世代は、ほとんどの人がスワヒリ語を使用している。家庭外では、村の中でも街中でも共にスワヒリ語が主に使用されていた。よって、ボンデイ語は、高齢層が家庭内で使用しているのみという状態である。

ボンデイの人々のボンデイ語に対する意見は、次の通りであった。高齢層は、ボンデイ語は、母語でありボンデイ族の文化を創るが、子供たちにとっては重要ではない、と考えている人々が多かった。若年層は、ボンデイ語はボンデイ族の言葉であり実家の言葉であるが、タンザニア全土の人々との会話が不可能であり、経済活動にも使用できない、と考えている人々が多かった。ボンデイ語に対して重要視する人々もいるが、全体的にボンデイ語は利用価値の低い言語と意識している人々が多いことが分かった。

タンザニア国内では、教育の場、テレビやラジオ、新聞等のマスメディアの場、外来宗教であるイスラームとキリスト教の信仰の場、経済活動の場面において、スワヒリ語が主に使用されている。このような言語状況は、タンザニア国内では同じである。ボンデイ語とスワヒリ語の差異と、上記 3 言語とスワヒリ語の差異は似ていると考えられることから、ボンデイ語の使用減少に関する問題は、使用地域の社会状況と関係があることが考えられる。

ボンデイ族居住地域は、交易が盛んであるインド洋海岸に近い。そのため、歴史的にイスラームとの接触が強く、又、1880 年代には、キリスト教のアングリカン教会が建設されている。それ故、外来宗教の影響が強く、現在では、土着信仰である山(ムリンガノ山)信仰、巨木信仰、祖霊信仰は殆ど行われなくなっている。経済活動の点では、ボンデイの人々は都市である沿岸部へ出稼ぎに行く人々が多数である。

ボンデイ社会で行われていた土着信仰および儀礼を含む文化の不継続、インド洋沿岸部に容易に移動できる地理的環境などの状況が、ボンデイの人々に文化への無関心を生み、ボンデイ語の使用が減少していると考えられることができる。